

令和4年度 第1回岐阜県社会教育委員の会 議事録要旨

1 日時 令和4年6月2日(木) 10:00~12:00

2 場所 岐阜県議会棟東棟第3面会室

3 出席者(委員の現在数14人 出席者12人)

<委員>

清水 優子  
村瀬 眞実  
天野 知子  
岩田 睦巳  
加藤 一紀  
松山 昌代  
水野 千恵子  
米原 木ノ実  
野中 準二  
細江 尚子  
益川 浩一  
太田 尚文

<事務局>

環境生活政策課長 山田 浩司  
生涯学習企画監 石井 幹也  
課長補佐 堀 正樹  
課長補佐 高井 美保子

4 議事

(1) 令和4年度 社会教育委員の会の活動について

事務局:【令和4年度 社会教育委員の会の活動について】

地域学校協働活動のリーフレットが完成したのでご活用いただきたい。

益川議長: ご意見・ご質問等いかがか。

太田委員: リーフレットはどこに配布予定か。

事務局: 公民館、学校、地域学校協働活動を行っていくところに多く配布する予定である。

(2) 令和4年度 社会教育事業について

事務局:【令和4年度 社会教育事業について】

- ①岐阜県生涯学習・社会教育振興の方針と重点
- ②人材育成研修
- ③ぎふ地域学校協働活動センター事業
- ④社会教育団体への補助金

## 5 研究・協議

### (1) 実践発表：高山市大八まちづくり協議会

講師：山本 真紀 氏

発表内容：「つなげる つながる つづける」

益川議長：大変素晴らしい取組である。ご意見・ご質問等いかがか。

太田委員：まちづくり協議会の本部が学校の中にあるということだが、どのような施設か。

山本氏：まちづくり協議会は、予算の中で学校の近くに部屋を借りて拠点としている。土日は学校の体育館、グラウンドを使用している。

益川議長：仕組み、制度として、地域学校協働本部として位置付いているか。

山本氏：コミュニティスクールとして学校運営協議会が立ち上がる以前から、「東山つながりの会」として、長い間、地域学校協働活動にあたる活動を行ってきた。その経緯もあり、学校運営協議会立ち上げの際、協議する機能だけでなく、「東山校区つながりの会」としてその活動も継承している。

中学校の学校運営協議会には、6つのまちづくり協議会がかかわっている。地域学校協働活動コーディネーターや、地域代表等が参加している。

益川議長：まちづくり協議会が地域と学校が連携する際の調整機能を担っている。学校運営協議会にも委員としてかかわっており、わかりやすい組織体制となっている。

山本氏：学生時代から、企画する活動が好きであった。育児サークル、PTA会長、社会教育協議会の役員などを担う中で、まちづくり協議会の活動につながっていった。

益川議長：地域で長く活動を続ける中で、人脈ができていったのではないか。

山本氏：一緒に活動をする人は毎年変わるので、活動の中で人脈ができていった。また、元同僚等の人脈も活用できた。

細江委員：補助金は市からどのように割り振られているのか。

山本氏：高山市から20地区に、均等割、面積割、人口割に基づいて割り出され、根拠のある金額となっている。事務局として予算編成・調整をしている。

細江委員：これだけの事業内容に予算を割り振るのは、さまざまな視点で考えられているのだと推察する。例えば、カフェについては参加者の負担額はあるのか。

山本氏：参加者にも費用を負担いただいている。材料費もいただいている。

細江委員：スタッフに対価は支払われているか。

山本氏：事務局等一部は報酬が発生するが、多くはボランティアで働いている。

細江委員：広告を出してもらっている企業以外に、企業との関りはあるか。

山本氏：「大八クーポン」という地域通貨の取組がある。LINEでの抽選、SDGs宣言、指定避難所の取組などに対してクーポンを出している。

コロナ禍では、自宅でできる活動を地元の園芸店に協力いただいた。

イベント時に協賛していただく企業もある。

益川議長：まちづくり協議会だけではできないことを、それぞれの得意分野や専門性を生かし、

地元の企業を含めて外部とうまく連携している。地域の課題がどこにあるのか把握しながら、さまざまな取組をしており、交付金を有効に活用している。

天野委員：様々な分野の講師のマッチングはどのようにしているか。

山本氏：ヒアリングをしてそれぞれの要望や適性を考えマッチングしている。

益川議長：様々な要望を非常にうまくコーディネートされている。サポーターが敷居低くゆるやかに関わることができる仕組みがよい。

山本氏：それぞれの得意なことを持ち込みした企画を実施した例もある。

益川議長：得意なこと、好きなことを行うことができ、自分の力が発揮される組織の在り方がよい。

水野委員：高山市の社会教育委員在任時に関わらせていただいた。

多額の補助金は自由度があるが、予算編成が困難になる場合もある。住民が喜ぶ企画を考えたり、スポーツに関わる企画をしたり、地域のことを考えた企画をしたり、環境整備に活用したりしなければならない。当初は、予算を使い切るための課題もあったが、各地区が特色を出し工夫して活用している。

様々な年齢層がある中、まちづくり協議会の運営においてどのような影響があったか。

山本氏：まちづくり協議会の発足時から年齢層は低かった。町内会は高齢者が多く、すみわけができた。町内会の家族の方がまちづくり協議会の事業に参加することによって、理解が深まっていった。年齢の壁は感じない。

益川議長：年齢ではなく、好きなことを生かすことができ、得意なことを行ってもらおうという観点で、人を選んでいる組織のよさがある。

清水委員：よい人が集まってくる組織となっている理由として、柔らかさがあることがあげられる。新しいことを行うときには大変であるが、充実感がある。新しい人がくるには「口コミ」の力がある。人と関わるコツがあれば教えていただきたい。男女比も教えていただきたい。

山本氏：特に工夫をしているわけではないが、好きなことを行ってもらおう。自然体で行っている。男女比に関しては、特に取り決めはなかったが、4人中男女各1名以上としている。

益川議長：適材適所で人材をうまく生かしている。人を関わらすことができる力がたけている。

松山委員：役員の構成などPTAの活動においても当てはまることなので生かしていきたい。

PTAとしても地域とつながっていききたいという思いがあるので、この活動を参考にしたい。

益川議長：PTAの方も協議会に入っているのか。

山本氏：前任のPTA会長が入っている。

加藤委員：人を大事にしている。青年リーダーの育成事業を行っているので、こういったところで活躍してくれたらと感じた。

益川議長：学校においてはどうか。

村瀬委員：地域にはよい大人がたくさんおり、前向きに活動している。学校職員はそういった存

在をもっと知るべきである。これからを担う職員がこういった活動事例を聞く機会があるとよい。

益川議長：地域にはよい大人がたくさんいる。新たに育成しているわけではなく、「あるもの生かし」で人材を発掘しているところにこの活動のよさがある。

岩田委員：人に頼ることが上手である。自らも学ぶ姿勢があり、周りの人たちが手を貸してくれる。人との関わりを大切にしているので、周りも協力してくれるというよい関係が築けている。

益川議長：推進委員やコーディネーターとして、人とつながる力は大切である。

野中委員：山本さんが実践されていることはどんな組織にでも生かせることである。山本さんのマネジメント力がたけている。マネジメントができる次世代の人材は育ってきているのか。

山本氏：まちづくり協議会の中で、防災などの分野ごとにグループを作って、学び合いの機会をつくっている。

米原委員：8年前まちづくり協議会ができた当時、小中学生が高校を卒業すると地元を離れてしまうという課題があったが、まちづくり協議会の取組みと合わせて、高校生の中に地域について考えるグループが育ってきたことが感慨深い。

益川議長：まちづくり協議会が、地域学校協働本部の役割を担っているよい事例である。地域と学校、地域と子ども、大人と子どもをうまくつないでいる、まさにコーディネート組織の役割を果たしている。調整機能、本部の置き方の一つとして、まちづくり協議会の活用もあるのではないか。

活動のよさについては、次のようにまとめる。

- ①前年踏襲ではなく、地域の課題を考えた活動を企画・立案し実行している。
- ②外部の力、専門家の力、地域人材の力を活用し、連携することによって、地域の課題から考えられた活動を展開している。
- ③組織の継続を考え、その人が好きなことや得意としていることに関わることができる広い視点での組織作りをしている。柔軟かにゆるやかに幅広い人が関わりやすい仕組みができています。

人のよさについては、次のようにまとめる。

- ①自分自身も勉強されていることはもちろんだが、人に頼る力もあり、得意な人には任せ、つながりをつくることができる。一人ですべて行うことは不可能なので、人間関係を築くことができる能力はコーディネーターとして必要である。

県へのアピールポイントについては、次のようにまとめる。

- ①交付金制度の活用の仕方、持込企画が素晴らしい。
- ②人々が行いたい活動に意義を見出して、それを支援するというスタンスがよい。
- ③最終的に自立できる活動となるような支援の仕方がよい。
- ④県が推進している「地域づくり型生涯学習」を体現した活動であり、学びの成果を生かす、学んだ側が先生になる、学びを分かち伝える等の仕組みができています。

⑤活動する方たちが好きなこと、得意なことを行い、楽しむことができている。大人が楽しむ姿を見て子どもたちが自ずと活動に関わり、活動の継続性の好循環が生まれている。

益川議長：議事が終了したため、進行を事務局へお返しする。